

農家と対話、共に成長

6月に中濃5市8町村をエリアとするめぐみの農業協同組合（JAめぐみの）の代表理事組合長に就任した渡邊健彦さん（66）＝美濃加茂市＝が取材に応じ、「組合員である農家としっかりと対話して、共に成長するJAを目指したい」と抱負を語った。管内の課題やコメの価格高騰への対応を聞いた。

―就任の抱負を。

「当JAは22年前、中濃、美濃加茂、可児郡上、おくみの五つの組合が合併して誕生した。合併前、JA岐阜中央会の職員として準備に携わった。大地の恵みと美濃から付いた『めぐみの』の名称は今も親しまれており、感慨深く責任の重さを感じている。JAの経営は信用（金融）、共済（保険）で出た収益を農家を支援する営農に還元する仕組み。JAの財産は組合員である農家。農家の皆さんと共に成長するJAを目指したい。それを実現するため、まずは営農に力を注ぎたい」

―具体的な取り組みは。

「営農の指標は『とれたひろば』をはじめ直営の農産物直売所での販売取り扱い量。農家の収穫量増加、

JAめぐみの 渡邊組合長インタビュー

販売単価と品質の向上、販売拡大の支援を充実するため、営農指導員をはじめ職員がしっかりと対話して、農家のニーズや思いを把握し、実現したい。営農指導員だけでなく、職員がお客様との顔と名前を覚えて、ライフステージに合わせて金融、保険も総合的に提案し、メリットを感じてもらえるJAにしたい」

―管内の課題は。

「豪雨や猛暑による収量や品質の低下、資材価格の高騰、農家の高齢化による離農と課題は多い。当JAの管内は中山間地の過疎地が多くあり、農家の高齢化と減少は深刻だ。小規模な農家ほど経営は厳しい。生産を営農法人や知人に依頼している人もいるが、規模や立地、効率の面から難し

農地のマッチング支援を推進 コメ、納得の価格で安定供給図る

い農地もある。個人経営から法人経営、後継者のいない農家の共同経営化、農地のマッチングの支援を進めたい。就農塾をはじめ、新規就農者の育成にも努めている。農家には収穫量増加、品質向上に専念してもらい、JAが単価向上や販路の確保を担い、所得の拡大に取り組みきたい」

―「令和の米騒動」への対応は。

「昨年、全国のコメの生産量に占める全国農業協同組合連合会（JA全農）の集荷量は3割弱だった。消費量に対し、生産量が不足していることを主因に業者の

争奪戦が起こり、価格が高騰した。当JAは、農家からの買い取りとJA全農への販売委託が半々。昨年は十分な量が集荷できず、学校給食やとれたひろばに十分な供給ができなかった。その反省から、独自の販路開拓に力を入れ、買い取りの割合と、とれたひろばでの販売を増やそうと考えている。流通業者が入らない分、農家の収益を確保でき、店頭での販売価格も抑えられる。ブランド米から手頃な価格のコメまで取りそろえ、消費者に納得してもらえる価格で安定的に供給できるようにしたい」



就任の抱負を語る渡邊健彦組合長
＝関市若草通、めぐみの農業協同組合